

# チベット語訳『妙法蓮華註』 「五百弟子受記品」和訳

望 月 海 慧

## はじめに

身延山大学東洋文化研究所では、平成25年度より法華経研究班による研究プロジェクト「『妙法蓮華経玄賛』の漢文テキストとチベット語訳テキストの比較研究」を立ち上げた。この基による『妙法蓮華経玄賛』にはチベット語訳とされる『妙法蓮華註 (*Dam pa'i chos punḍa ri kai 'grel pa*)』（以下、本論）が現存し、その相違の多きことがすでに報告されている。そこで両者を比較するためのチベット語訳校訂テキストを作成するにあたり、その和訳（研究代表者：望月海慧）及び漢文テキストの科文作成（研究協力者：金炳坤）を先行して進めている。本稿は拙稿「チベット語訳『妙法蓮華註』「授学無学人記品」和訳」に続くものであり、ここでは本論の第8章の和訳を提示する<sup>(1)</sup>。

## 1. 『妙法蓮華註』「五百弟子受記品」の構成

本章においても、他の章と同様に、最初に3項目からなる章題の解説に続き、経典の本文の解説がなされる。その解説は、経文の文頭と末尾を引用し、その内容を簡略にまとめたものである。それにタイトルを付すと、次のようになる。

[1] 世尊に対する恭敬

[2] 世尊に対する恭敬の在り方

[3] 衆生の想いを知ること

[4] 世尊による問い

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| [5] 現在の功德              | [6] 功德の殊勝           |
| [7] 功德の殊勝2             | [8] 法の保持と菩薩行        |
| [9] 衆生利益と菩薩行の道とその結果    | [10] 如来の国土の莊嚴       |
| [11] 三悪趣のないこと          | [12] 天と人の特徴         |
| [13] 身体による保持           | [14] 三功德をともなうこと     |
| [15] 仏国土莊嚴             | [16] 劫と国土と寿命と塔      |
| [17] 過去の授記と現在の功德と来世の功德 | [18] 声聞の場所          |
| [19] まとめ               | [20] 過去時の十功德        |
| [21] 富樓那の七義            | [22] 授記の原因          |
| [23] 授記の結果             | [24] 菩薩の第八地から受用地    |
| [25] 500比丘への授記の内容      | [26] 世尊の授記          |
| [27] 授記の宣告             | [28] 500比丘への授記      |
| [29] 明らかな授記            | [30] 国土と衆会と寿命       |
| [31] 500比丘への授記の自性      | [32] 他の700人の声聞への授記  |
| [33] 以前の落胆したことの懺悔      | [34] 小さな信解          |
| [35] 未了義の譬喩            | [36] 他の行に入ること       |
| [37] 了義の喩例             | [38] 了義             |
| [39] 功德の完成             | [40] 譬喩と了義の結合       |
| [41] 発心から退くこと          | [42] 大乘の誓願が損なわれないこと |
| [43] 涅槃の特徴             | [44] 罪過の苦と知の生起      |
| [45] 発心の譬喩             | [46] 未了義を捨てる功德と譬喩   |
| [47] 未了義と了義のまとめ        |                     |

## 2. 漢文テキストとチベット語訳テキストの相違理由

漢文テキストとチベット語訳テキストの相違点については、以下の「チベット語訳テキストの和訳」を注記の漢文テキストと比較すれば明らかになるが、その相違が生じる理由について気がついた点をいくつか指摘しておく。

まず、本論の [17] において解説される偈頌の数が、漢文テキストは「21偈半」であるのに対して、本論は「20偈」になっており、続く文章において、それを12偈と9偈とに分けることと合わなくなっている。これは漢文テキストが依った鳩摩羅什訳がこの箇所の偈を「21偈半」と翻訳しているのに対して、チベット語訳『法華経』は「20偈」となっているからである。チベット語訳テキストは『法華経』の本文の引用を同経のチベット語訳により修正していることから、偈の数も修正されたのだが、解説文の偈の分類の再解釈までは行われなかったことになる。

次に、本論の [35] と [36] との間に、漢文テキスト (41) があるのだが、これに対応するチベット語訳はみられない。この『法華経』の経文は、鳩摩羅什訳にのみ存在する文章であり、同経のサンスクリットやチベット語訳にはないものである。そのために、チベット語の翻訳者は、このセクションの解説文の翻訳を行わず、削除したのであろう。

このように、本論は『法華経』のチベット語訳の経文を確認した上で、テキストの翻訳が行われている。すなわち、漢文テキストの著者とそのチベット語の翻訳者が依拠した『法華経』のヴァージョンが異なるために、その経文の相違する箇所においてテキストの相違がみられる。

### 3. チベット語訳テキストの和訳

これ以後は「500比丘授記品」で、理由と、名称と、問答の三種に分けられる。<sup>(2)</sup>

この章の名称を名付ける理由も四種で、根の次第のとおり授記するので、鋭根の者たちの授記の次にこの授記が出ており、増上慢をもつ禪定を修行しない者たちが心を乱して撰義の大乗の善根があることを知らない譬喩を身体に宝珠が付けられている譬喩が説いており、三昧と大乗に入るためにこの章が説かれ、十無上より所知無上が説かれるので大乗の善根があることを説くためにこ

の章が説かれており、授記の六種を平等から意図して、授記そのものが説かれるので、この章が解説される<sup>(3)</sup>。

500は数である。「比丘」とは、実体である。「授記」とは、その意味から多くを名付けている<sup>(4)</sup>。

この章の中に宝珠が身体に着いている譬喩により意味を示すならば、「その名称から名付けずに、何故に「授記品」と名付けるのか」と言う問いと、それは根が熟した心が生じたものたちには前に授記しており、その次に譬喩を示すためにその名称を付しても過失はない。また「その衆会で1200比丘が授記を得るならば、ここに500に限定して述べるのは何故か」と言う問いと、それらの比丘がその衆会の中にいるが、他の者はそこにいないので、現れた者に対する授記で、「1200はまとめたの授記であり、これは後で授記されるから」とも解説される<sup>(5)</sup>。

[1] 経に「それから長老プールナ・マイトラーヤニーブトラは」と言うものから「これらも聞いてから」と言うまでは、世尊に対する最初の恭敬が説かれ、その次に正しいお言葉を受けて、その最初にも恭敬の在り方と、受けた意味がある。受けた意味も、了義と未了義である。「世尊の偉大さ」とは、法を説くことを意図する瑞相である光明が満ちる所作と、大地が揺れ、花が降ることで、衆会の請願と賞讃などの所作である<sup>(7)</sup>。

[2] 経に、「不可思議な」から「御足に敬礼してから」と言うまでは、世尊に対する恭敬の在り方が説かれている<sup>(8)</sup>。

[3] 経に、「奇瑞である。世尊よ」と言うものから「眼を閉じずに見なさい」と言うまでは、これにより衆生の想を知ることが説かれている。先に如来の不可思議な功德が説かれ、その次に心のいかなる相に解脱するかを知見することを示すそれも、「仏のみが知り、他のものはできない」と合わされる<sup>(11)</sup>。

[4] 経に「それから世尊は」と言うものから「マイトラーヤニーブトラを見なさい」と言うまでは、世尊による問いが説かれ、「この明らかになったものを

見なさい」と説かれて<sup>(13)</sup>いる。

〔5〕経に、「これは私が比丘の」と言うものから「多くのものが賞讃する」と言う<sup>(14)</sup>までは、現在の功德を示し、その功德も先に功德の一般が説かれ、その次に<sup>(15)</sup>功德の特殊が説かれている。

〔6〕経に、「多くの相により私が説いたこれを」と言うものから「他のものは至ることはできない」と言う<sup>(16)</sup>までのこれにより、功德の殊勝が説かれて<sup>(17)</sup>いる。

〔7〕経に、「比丘たちよ、この意をどのように思うか」と言うものから「それらの七仏の最後が私であり、それらの中でも説法の第一になった」と言う<sup>(18)</sup>までは、それらの功德の殊勝についても、如来が説かれたものを保持し、衆会の歡喜と利益を生じさせ、如来の説教に巧みで、梵行者たちに利益をなし、特別な弁才になることである<sup>(19)</sup>。「空性により歩み<sup>(20)</sup>」とは、善慧地に住して、一切の疑惑が捨てられる。「完全に成熟した<sup>(21)</sup>」とは、「法雲地に住するので多くの衆生に利益をなす<sup>(22)</sup>」と言われる。仏国土を浄化することは、「有余涅槃のものが菩提に発心し、大乘を莊嚴することで無上の菩提に転じる。菩提に転じたそれら自身は利他をなして、その仏の所作により国土を莊嚴する<sup>(23)</sup>」と言われる<sup>(24)</sup>。

〔8〕経に、「比丘らよ、この賢劫において」と言うものから「完全に成熟させる<sup>(25)</sup>」と言う<sup>(26)</sup>までは、如来の法の保持と菩薩の行が説かれている。

〔9〕経に、「常に相続を中断させない」と言うものから「仏世尊で」と言う<sup>(27)</sup>までは、衆生の利益をなすことと、菩薩行の道を説いたものと、実体である結果を示しており、授記である<sup>(28)</sup>。

〔10〕経に「この仏国土に」と言うものから「完全に満たすであろう」と言う<sup>(29)</sup>までは、如来の国土の莊嚴を示して、その莊嚴も「宝珠から作られたものと同じである<sup>(30)</sup>」とまとめられる。

〔11〕経に、「天の宮殿と」と言うものから「女性もいない」と言う<sup>(31)</sup>までは、「そこには善のみである」と言う意味で、天と近くのをそれぞれ見て、三悪趣はなく、食欲の基体がないので「化生だけである<sup>(32)</sup>」という<sup>(32)</sup>までが合わされる。

[12] 経に、「化生で、梵行をなし」と言うものから「身体は飾られるであろう」と言うまでには<sup>(33)</sup>、天と人の特徴が「神通をともない、身体は光をもち、虚空に行き、意は堅固で、精進をともない、智慧をとまなう特徴をもっている」<sup>(34)</sup>と分けられる<sup>(35)</sup>。

[13] 経に、「比丘らよ、またその時に」と言うものから「禅悦食」と言うまでには<sup>(36)</sup>、身体が何により保持されるのかという意味を示しており、経に食は四種と九種と説かれており、一般に二種で、世間と出世間の食や、有漏と無漏の食であり、世間の食は、段食と、触食と、思食と、識食である。出世間の食は、禅食と、願食と、念食と、八解脫食と、歓喜食とで、その五食より最高と言われるこの二つの時に、これが保持する意味である<sup>(37)</sup>。

[14] 経に、「その菩薩」と言うものから「禅定だけである」と言うまでのこれは<sup>(38)</sup>、菩薩と声聞の衆会で、三功德をとまなうことだけが合わされる<sup>(39)</sup>。

[15] 経に、「その仏国土は、そのように無量の功德をとまなうであろう」と言うものから「どのようにこの菩薩行を行じるのか」と言うまでは<sup>(40)</sup>、仏国土の莊嚴の意味がまとめられる<sup>(42)</sup>。

[16] 「劫は」と言うものから「また師は次のように説かれた」と言うまでは<sup>(43)</sup>、劫と、国土と、寿命と、塔が説かれている<sup>(44)</sup>。

[17] 経に、「比丘よ、この意味を私に示す」<sup>(45)</sup>と言うものから「多くの菩薩を成熟させる」<sup>(46)</sup>と言うまでには、20偈を二つに分けて、最初の12偈により如来により説かれたものが、9偈により前世における授記が、上の偈にも二種で、7偈により現在の功德が説かれ、5偈により来世の功德が説かれている<sup>(49)</sup>。

[18] 経に、「このように言う。『私たちは声聞である』」と言うものから「衆生の見解への執着を知っているのだから」と言うまでには<sup>(50)</sup>、声聞の場所は如来地から遠く、衆生利益をなすことが小さく、場所と国土が小さいところで浄化することを示している<sup>(51)</sup>。

[19] 経に、「その説かれたものを近くにとどめる」と言うものから「無知の

人たちはとても陶醉するであろう」と言うまでは、<sup>(52)</sup>まとめである。<sup>(53)</sup>

[20] 経に、「その一切の行が明らかに説かれ」と言うものから「多くを聞き、畏れなく種々を解説し」と言うまでのこれは、<sup>(54)</sup>過去時の十功德が説かれ、散文に出ていない説法で、特に勝れており、多くを聞き、智慧をともなっていることがここに述べられている。<sup>(55)</sup>

[12] 経に、「常に倦怠なく、歎喜を明らかにさせ」と言うものから「自分の最高の国土を浄化する」と言うまでのこれにより、<sup>(56)</sup>七種の意味を示しており、説くことに巧みで、神通をともなっており、正しい知を獲得し、根を知り、法の最高を示し、大きな利益をなし、仏国土を浄化することである。<sup>(57)</sup>

[22] 経に、「未来時にそのように」と言うものから「常に保持するようになる」<sup>(58)</sup>と言うまでは、<sup>(59)</sup>これによる授記であり、前の2偈により原因が説かれ、7偈により結果が説かれており、諸仏に供養し、法を示し、仏国土を浄化し、衆生に利益をなすことである。<sup>(60)</sup>

[23] 経に、「世間において自ら生じた仏になった」と言うものから「悪趣と悪趣の恐れはない」と言うまでは、<sup>(61)</sup>結果が説かれており、それもその自性と、その国土と、その劫の名称と、国土の莊嚴と、菩薩の衆会で、上に解説したものと同じように合わされる。<sup>(62)</sup>

[24] 経に、「それと同じ正しい国土になる」と言うものから「これは僅かだけを解説したものである」と言うまでは、<sup>(63)</sup>菩薩の第8地以上から円満な受用地までが合わされる。<sup>(64)</sup>

[25] 経に、「それは自在なる」と言うものから「希有となる」と言うまでは、<sup>(65)</sup>これ以後の500比丘の授記で、心の願望と、世尊がお与えになられることと、明らかな授記と、続けて受けることである。<sup>(66)</sup>

[26] 「それから世尊は」と言うものから「授記する」と言うまでは、<sup>(67)</sup>世尊がお与えになられることと合わされる。<sup>(68)</sup>

[27] 経に、「そこでマハーカーシャパよ」と言うものから「仏世尊で」と言

うまでに<sup>(69)</sup>明らかに説かれており、それも、言葉のみと偈に<sup>(70)</sup>区別される。

[28] 経に、「カーシャパよ、それは」と言うものから「関連する500人である」と言うまでには、500比丘が授記され、それに対してある者が、「この500人は1200の数に含まれている」とも言い、他に師も<sup>(72)</sup>いる。

[29] 経に、「それから世尊はその時に」と言うものから「正しい最高の菩提も示すであろう」と言うまでには、<sup>(73)</sup>明らかに説かれており、そこで最初の6偈<sup>(74)</sup>により賢い聖者のために説かれ、その次により他のものに説かれ、これは最初の自性が<sup>(75)</sup>説かれている。

[30] 経に、「菩薩は諸精進を」と言うものから、「天と人が憂い考えるようになる」と言うまでには、<sup>(76)</sup>国土と衆会と寿命が<sup>(77)</sup>説かれている。

[31] 経に、「その勝者と異なるものは」と言うものから「例えば一切世間に私が説いているように」と言うまでには、500比丘の授記の自性に<sup>(78)</sup>まとめたものが<sup>(79)</sup>説かれている。

[32] 経に、「そのように、それらを、カーシャパよ、あなたは今日」と言うものから「そのように命令する」と言うまでは、この衆会に<sup>(80)</sup>集まらないものたちを<sup>(81)</sup>相続して、授記している。

[33] 経に、「それからそれらの500阿羅漢」と言うものから「それらの罪過を私たちは懺悔する」と言うまでには、<sup>(82)</sup>歎喜の心により正しいお言葉を受け、以前に<sup>(83)</sup>落胆した心の害が述べられる。

[34] 経に、「世尊よ、これは」と言うものから「小さい時に満足していた、と<sup>(84)</sup>考えて」と言うまでには、前に小さな信解により<sup>(85)</sup>述べられ、その次に小さいことを<sup>(85)</sup>示している。

[35] 経に、「それは、例えば」と言うものから「衣服の端に結びつけた」と言うまでのこれにより、<sup>(86)</sup>未了義の譬喩が解説されている。そこで恐怖を離れたその人は酔っぱらい、他の国に行き、疲労した者のようになって、それは最初のもの<sup>(86)</sup>と合わされる。「家に至る」とは、大乘の説と結びつけられる。「酔うこ



と」とは、「無明を捨てないこと」と言われる。寝ることは、輪廻にとどまることである。「宝珠」とは大乗で、「如意宝珠は種々なる目的が生じるように、一乗に向かう菩薩は意のままに成就する」と言われる。「衣服の端に結びつける」とは、以前の大乗の善友と結びつく習気である<sup>(87)</sup>。

[36] 経に、「それから、世尊よ、その人は」と言うものから「それを歓喜する」と言うまでに<sup>(88)</sup>、「心を動かすものたちに変化の村を説いたように他に行く」と言うことで、他の行に入ることである。大乗の意味と法の味により貧者が食事と衣服を求めることである<sup>(89)</sup>。

[37] 経に、「それから、世尊よ」と言うものから「このように言う」と言うまでは、了義を示す譬喩である<sup>(90)</sup><sup>(91)</sup>。

[38] 経に、「人よ、あなたは食と飲み物を」と言うものから「満足するのか」と言うまでは、了義を示しており、「欲」とは、五種の楽苦で、自性の楽と、原因の楽と、捨の楽と、煩惱の対治による楽と、無害の楽とで、「如来の清浄なる法界と四智と五も成就させる楽」と名付けられ、無漏の五蘊も楽を作るものなので「楽」と名付けられる<sup>(93)</sup>。

[39] 経に、「ああ、人よ、あなたは」と言うものから「一切のなすべきことをなしなさい」と言うまでには、大乗に入ることで一切の功德が完成させられ、「例えば如意宝珠が変化するように」と合わせられる<sup>(95)</sup>。

[40] 経に、「そのように世尊よ」と言うものから「発心するようになった」と言うまでには、譬喩と了義とに合わせられ、捨の功德と合わせられる<sup>(96)</sup><sup>(97)</sup>。

[41] 経に、「それを私は考えず、理解せず」と言うものは、<sup>(98)</sup>発心から退くことが説かれている<sup>(99)</sup>。

[42] 経に、「世尊よ、そのために」と言うものから「常に損なわれない」と言うまでは、<sup>(100)</sup>聖なるその阿羅漢が難行を浪費することと、大乗を誓願することで「小さい知恵で満足している」と言われる<sup>(101)</sup>。

[43] 経に、「それから世尊よ、私は」と言うものから「方便に巧みで」と言

チベット語訳「妙法蓮華註」「五百弟子受記品」和訳（望月海慧）

うまでは、<sup>(102)</sup>了義と合わせた涅槃の特徴が説かれている。<sup>(103)</sup>

[44] 經に、「そのように世尊で」と言うものから「満足をした善逝は」<sup>(104)</sup>と言うまでの<sup>(105)</sup>12偈半により罪過を損うものを尊重することと、知を起こすことが説かれている。<sup>(107)</sup>

[45] 經に、「例えばある人が」と言うものから「五欲の功德をともなう」と言うまでには、<sup>(108)</sup>その譬喩も最初の発心の譬喩と途中で心を強くする譬喩である。空性を説いたものと、その空に入ることで無上の大楽をもつ譬喩が説かれている。<sup>(109)</sup>

[46] 經に、「そのように世尊よ、我々は次のように」と言うものから「我々は涅槃のみを最高と把握している」と言うまでには、<sup>(110)</sup>先に未了義が説かれていても、捨てる功德と、途中で退ける譬喩が説かれている。<sup>(111)</sup>

[47] 經に、「その無上を望まず、求めない」と言うものから「尊者よ、一人一人授記するので」と言うまでは、<sup>(112)</sup>未了義と了義がまとめられ、何れかの種に入るべきである。<sup>(114)</sup>

〈略号と参考文献〉（望月 [2014] に続く）

望月2014 望月海慧「チベット語訳『妙法蓮華註』『授学無学人記品』和訳」松村壽巖先生古稀記念論文集刊行会編『日蓮教学教団史の諸問題』山喜房佛書林。

〈注〉

- (1) Tib. C. Di 300b5-304b4, D. Di 289b4-293a5, G. Di 438b5-443b6, K. pp. 761.18-771.1, N. Di 314a7-318a6, P. Di 331b5-336a1; Chin. T. No. 1723, 805c-806c.
- (2) T. No. 1723, 801c22: 三門分別一來意二釋名三解妨
- (3) T. No. 1723, 801c22-802a14: 來意有四一者上根之徒一聞法而便記中根之輩再聞法而與記今下根之儻三周聞法既能悟解所以與記故此品來 二者論云爲除七種具足煩惱性衆生有七種增上慢中第五無定人於下劣心生虛妄解起增上慢爲此說繫寶珠喩謂彼散亂心實無有定過去雖有大乘善根而不自覺知彼不求大乘於下劣心生虛妄解以爲第一乘對治此故說繫寶珠喩故論又云第五人者顯示過去善根令憶念教入

三昧故此是有學及凡夫未得定心執二乘道以爲究竟不知過去大乘善根今令入定憶念彼時大乘善根如醉酒臥密繫寶珠故此品來三者十無上中第四令解無上說繫珠喻謂說往緣令生覺解知有大乘善根妙寶故此品來是義殘也 四者論解授記有六處示現一別記舍利弗及四大聲聞是二同記富樓那等五百及千二百共同一號非衆所知俱時與記故此品來然滿慈名法明餘名普明明義同故多同名故名爲同記

- (4) T. No. 1723, 802a14-17: 釋名者受音植西反玉篇容納也領也得也五百者數弟子者人受記者事從三以得名五百弟子受納佛記記之受名受記依主釋也
- (5) T. No. 1723, 802a17-b6: 解妨者問十無上中七喻之中皆言繫寶珠何故不以爲名以受記爲目答根熟發心卽爲記別後方說喻繫於寶珠從初爲名故名受記 問上根等領並在記前何因五百領悟在受記後謂繫寶珠是五百弟子之領悟也 答上中不待受記聞說而便領解下根稟性既遲因記方生喜意喜意既發方申領悟故與前二領解不同又下根滿慈已前領悟五百下品記訖更申明本意領悟深重非時始領先已領故 問此品之中滿慈及一千二百同皆得記何故唯記五百爲名 答有四解 一云五百在會現前得記千二百人有不在會不現前故 二云五百佛自與記千二百人佛於偈中令傳爲記 三云五百人佛與別記謂轉次授記等別說其相貌千二百人佛但總記不別顯相 四云其五百人能生領解說繫寶珠喻千二百人無別領悟滿慈一人少故不說故但以五百爲品名以全數故不以千二百等爲品號數不全故
- (6) 【法華經】の引用箇所については、サンスクリットをケルン・南條本により、チベット語訳を中村瑞隆の北京版により、漢訳を大正新脩大藏經の鳩摩羅什訳により示しておく。Skt. Kern 1977, p. 199.1-3; Tib. 中村1985, p. 199.1-3; Chin. T. No. 262, p. 27b17-20.
- (7) T. No. 1723, 802b7-26: (1) 經爾時富樓那至神通之力 贊曰此品大文分三第三周說法有四已上佛說故下有初三滿慈心念領解次爾時佛告下世尊發言印述後諸比丘富樓那亦於七佛下正爲授記一人爲首餘亦理同略舉一隅三隅返故初文有二初明領解虔恭後明心念領解初文復二初明所領後明虔恭此初也所領有四一領說法近領化城寶所遠領方便品下初權後實二領授記近領授記品末云我諸弟子威德具足其數五百皆當授記於未來世咸得作佛遠領鷲子已下授記三領宿世因緣近領十六王子近事遠領鷲子方便品云世世已曾從佛受化譬喻品言我昔教汝志願佛道四領神通近領前品中設化城是神境智作證通中語能化設之大通佛十劫坐於道場震動十方放光遠照十方梵王觀光來集等事遠領釋迦初時召集動地雨華放光遠照乃至方便品云作此思惟時梵音慰喻我善哉釋迦文等皆是諸佛之神通也
- (8) Skt. Kern 1977, p. 199.3-5; Tib. 中村1985, p. 199.3-5; Chin. T. No. 262, p. 27b20-21.
- (9) T. No. 1723, 802b27-29: (2) 經得未曾有至目不暫捨 贊曰此明虔恭有八一得希法二心淨三踊躍四從坐起五到佛前六禮足七却住八瞻仰

- (10) Skt. Kern 1977, p. 199.5-10; Tib. 中村1985, p. 199.7-10; Chin. T. No. 262, p. 27b22-26. ただし、サンスクリット、チベット語訳、漢訳は語順の相違がある。
- (11) T. No. 1723, 802b30-c3: (3) 經而作是念至深心本願 贊曰此明心念領解初讚佛上德後申一心領解領解之情謂知及欲事既非一能深且廣言不能宣佛知我心何假具述
- (12) Skt. Kern 1977, p. 200.1-2; Tib. 中村1985, p. 200.1-2; Chin. T. No. 262, p. 27b26-27.
- (13) T. No. 1723, 802c4-11: (4) 經爾時佛告至彌多羅尼子不 贊曰下第三周第三大段世尊發言印述有三初問衆見不次我常稱其下歎其今德後汝等勿謂下談其往德此初也見是識義非是衆人眼所不見但意不識德行如何又見者看義現前立住汝等看不又雖衆見未必存心今欲說其德行問衆見不欲令衆生熟視瞻視聽察德行故言見不
- (14) Skt. Kern 1977, p. 200.2-3; Tib. 中村1985, p. 200.2-3; Chin. T. No. 262, p. 27b27-28.
- (15) T. No. 1723, 802c12-14: (5) 經我常稱其至種種功德 贊曰下歎今德有二初歎人後歎德歎德有二初總後別此歎人及總歎德
- (16) Skt. Kern 1977, p. 200.3-7; Tib. 中村1985, p. 200.3-6; Chin. T. No. 262, p. 27b28-c3.
- (17) T. No. 1723, 802c15-18: (6) 經精勤護持至言論之辨 贊曰此別歎德有五一助宣正法二能於四衆示教利喜三能釋佛法四利益同行五言辨高峻饒多也豐厚也益也餘也
- (18) Skt. Kern 1977, pp. 200.7-201.5; Tib. 中村1985, pp. 200.7-201.5; Chin. T. No. 262, p. 27c3-13.
- (19) T. No. 1723, 802c19-21: (7) 經汝等勿謂至亦最第一 贊曰下談往德有十此中有二一護助宣法爲護法城受持正法攝受正法二成勝人
- (20) Skt. Kern 1977, p. 200.10; Tib. 中村1985, p. 200.10; Chin. T. No. 262, p.27c5.
- (21) T. No. 1723, 802c22-25: (8) 經又於諸佛至無有疑惑 贊曰此有四德一解二空即空觀有故二得四辨住善慧地故三常審宣說順所證故離所詮故四無疑惑理事二疑並已盡故
- (22) Skt. Kern 1977, p. 201.2; Tib. 中村1985, p. 201.2; Chin. T. No. 262, p. 27c10.
- (23) T. No. 1723, 802c26-29: (9) 經具足菩薩至百千衆生 贊曰此有三德一具神通法雲地中大事業故二修梵行常持菩薩三聚戒故三隱行大利以小乘法利益衆生
- (24) T. No. 1723, 803a1-10: (10) 經又化無量至教化衆生 贊曰此中一德故攝論云化故說一乘即佛菩薩化作聲聞引接同類令發大心亦即楞伽云經於多劫耽三昧酒醉後從彼起方發大心勸餘聲聞我無量百返曾於聲聞無餘依涅槃而般涅槃以彼非真滅我從彼起故於今者還發大心汝等云何今猶住小如是等義如前一乘章此德有二一利他行

化他令立無上菩提二即由他成自利行爲淨佛土常作佛事

- (25) Skt. Kern 1977, p. 201.6-10; Tib. 中村1985, p. 201.6-10; Chin. T. No. 262, p. 27c13-17.
- (26) 本論は、次の (11) から (13) まで「T. No. 1723, 803a11-23: (11) 經諸比丘至亦復第一 贊曰下第三周第四大段正爲授記有二初授滿慈記後授五百記初記又二初記因後記果記因有六此初記成勝人七佛者即過去七佛前劫有三謂毘鉢尸佛尸棄佛毘濕縛浮佛賢劫有四謂迦路迦村陀佛迦路迦牟尼佛迦葉波佛釋迦牟尼佛辨賢劫等義並如彌勒上生疏說此爲總陳過去七佛今於我者現在別陳 (12) 經而皆護持至三菩提 贊曰此有二記一護助宣法二化立菩提 (13) 經爲淨佛土至菩薩之道 贊曰此有三記一常勤二利生三具菩薩道」を簡略にまとめている。
- (27) Skt. Kern 1977, p. 201.10-14; Tib. 中村1985, p. 201.10-14; Chin. T. No. 262, p. 27c17-21.
- (28) T. No. 1723, 803a24-25: (14) 經過無量至佛世尊 贊曰下果記有六此名號也明解法義故名法明
- (29) Skt. Kern 1977, pp. 201.14-202.3; Tib. 中村1985, pp. 201.15-202.3; Chin. T. No. 262, p. 27c21-24.
- (30) T. No. 1723, 803a26-b2: (15) 經其佛以至充滿其中 贊曰下第二土相有二初顯後結顯中有六此中有二一寬狹二相狀相狀有三一寶地二地平險者玉篇大阜也又丘陵塚也澗水名也廣深四尺即名爲溝壑谷也深也坑也虛也窟室也三臺觀
- (31) Skt. Kern 1977, p. 202.3-5; Tib. 中村1985, p. 202.3-4; Chin. T. No. 262, p. 27c24-25.
- (32) T. No. 1723, 803b3-5: (16) 經諸天宮殿至無有姪欲 贊曰此中有一有善無惡有四一天近二相見三無惡道女人四無欲化生
- (33) Skt. Kern 1977, p. 202.5-7; Tib. 中村1985, p. 202.5-7; Chin. T. No. 262, p. 27c26-28.
- (34) Skt. Kern 1977, p. 202.6; Tib. 中村1985, p. 202.5-6; Chin. T. No. 262, p. 27c26-27.
- (35) T. No. 1723, 803b6-8: (17) 經得大神通至而自莊嚴 贊曰此中亦一人天之相有七一得通二身光三飛行四志固五精進六智慧七相好
- (36) Skt. Kern 1977, p. 202.7-9; Tib. 中村1985, p. 202.7-8; Chin. T. No. 262, p. 27c28-29.
- (37) T. No. 1723, 803b9-c11: (18) 經其國衆生至禪悅食 贊曰此唯一一謂食任持此說二食佛地經說三廣大法味喜樂所持無垢稱云既食不死法還飲解脫味餘經說四謂段觸思識攝論說四一不清淨二清淨三淨不淨四示現依止住食增壹阿含經說九食四是世間食五是出世間食何等四種世間之食謂段食觸食思食識食廣說其相云何五種出世間食一禪食二願食三念食四八解脫食五喜食常共專念除捨四種世間之食求於五

種出世間食無漏之法破裂有漏非有漏食有漏之法違害無漏非無漏食實各名食暫爾資持可假名食究竟即非此及佛地無垢稱經唯說無漏非有漏食餘處說四唯有漏食非無漏食阿含說九通二種食攝論說四依人辨食非是法食異佛地法味所生喜樂即此法喜此依初得唯在意識欲界緣教但言喜食彼依後時亦通六識通色界有故開喜樂此合名喜適悅同故彼但約外緣不說禪悅禪悅即是輕安樂食此通說內緣故兼說禪悅此依初得唯在意識但喜名食彼無垢稱經假實有為無為二勝為食解脫苦故名解脫食真如理性名不死食二永資益故偏說之餘經說四謂段等者唯說有漏能長氣力能長喜樂能長希望能攝諸根大種造色并壽與煖相續不壞又身受法心此四如次長有漏身觀入念住故但有四阿含說九有漏無漏二合說故後五之中禪喜二種即此二食能長法身資益勝故所以偏說願念解脫雖亦實有資長之義彼名為食以非殊勝通一切有緣外內生劣於法禪故此等經略而不說

- (38) Skt. Kern 1977, p. 202.9-12; Tib. 中村1985, p. 202.8-11; Chin. T. No. 262, pp. 27c29-28a4.
- (39) T. No. 1723, 803c12-13: (19) 經有無量至及八解脫 贊曰此中唯一謂三乘眷屬菩薩三德聲聞三德
- (40) 『法華經』のチベット語訳では第1偈の第3パーダ、漢訳では第2パーダであるが、サンスクリットでは第4パーダである。ただし、この次のセクションが、偈の前の散文箇所を指摘し、続くセクションは第1偈の他のパーダを指摘する。
- (41) Skt. Kern 1977, pp. 202.12-203.5; Tib. 中村1985, pp. 202.11-203.6; Chin. T. No. 262, p. 28a4-10.
- (42) T. No. 1723, 803c14: (20) 經其佛國土至莊嚴成就 贊曰此結土相
- (43) Skt. Kern 1977, pp. 202.12-203.3; Tib. 中村1985, pp. 202.11-203.4; Chin. T. No. 262, p. 28a5-8.
- (44) T. No. 1723, 803c15-16: (21) 經劫名寶明至遍滿其國 贊曰此有四記一劫二國三壽四塔
- (45) 『法華經』のサンスクリットと漢訳では第1偈の第1パーダであるが、チベット語訳では第4パーダとなる。
- (46) 第3偈の第2パーダであるが、続く解説文では第10偈までの内容が分類されている。
- (47) Skt. Kern 1977, p. 203.4-8; Tib. 中村1985, p. 203.6-9; Chin. T. No. 262, p. 28a9-13.
- (48) 漢文テキストは『法華經』の漢訳に従い「21偈半」とするものの、本論は『法華經』のサンスクリットとチベット語訳に従い「20偈」と訂正する。
- (49) T. No. 1723, 803c17-22: (22) 經爾時世尊至化諸衆生類 贊曰二十一頌半分二初十二頌頌上佛印述後九頌半頌正爲記初文又二初七頌頌歎今德後五頌頌歎往德不

頌問衆理雖但頌今德文勢似頌一切應化弟子初文有三初二頌半標學次三頌釋成後一頌半結略此初也。ただし、前述のように、サンスクリットでは「20偈」であり、その内容を分類すると、第1偈から第7偈が現在の功德であり、第8偈から第11偈が過去の授記であり、第12偈から第20偈が未来の授記である。

- (50) Skt. Kern 1977, pp. 203.9-204.3; Tib. 中村1985, pp. 203.10-204.4; Chin. T. No. 262, p. 28a14-19. 【法華經】のチベット語訳では、第3偈の第3パーダから第6偈の第3パーダとなる。
- (51) T. No. 1723, 803c23-25: (23) 經自說是聲聞至又現邪見相 贊曰釋成有二初一頌半示住聲聞去佛道遠化諸衆生後一頌半示現處小實淨佛土
- (52) Skt. Kern 1977, p. 204.4-6; Tib. 中村1985, p. 204.4-6; Chin. T. No. 262, p. 28a20-22. 【法華經】のチベット語訳では、第6偈の第4パーダから第7偈の第4パーダとなる。
- (53) T. No. 1723, 803c26-27: (24) 經我弟子如是至心則懷疑惑 贊曰此結略也
- (54) Skt. Kern 1977, p. 204.6-9; Tib. 中村1985, p. 204.6-9; Chin. T. No. 262, p. 28a23-26. 【法華經】のチベット語訳では、第7偈の第3パーダから第9偈の第2パーダとなる。
- (55) T. No. 1723, 803c28-804a1: (25) 經今此富樓那至多聞有智慧 贊曰下五頌頌往德有十種此中有三一護法二勝人三多聞有智慧長行所無
- (56) Skt. Kern 1977, p. 204.10-14; Tib. 中村1985, p. 204.10-14; Chin. T. No. 262, p. 28a27-b3. 【法華經】のチベット語訳では、第9偈の第3パーダから第11偈の第4パーダとなる。
- (57) T. No. 1723, 804a2-4: (26) 經所說無所畏至而自淨佛土 贊曰此中有七一能說二得通三具無礙解四識根五說淨法六爲大益七淨佛土
- (58) 【法華經】の鳩摩羅什訳の増広箇所のため、サンスクリットとチベット語訳には対応する句はない。
- (59) Skt. Kern 1977, p. 205.1-5; Tib. 中村1985, p. 205.1-5; Chin. T. No. 262, p. 28b4-8.
- (60) T. No. 1723, 804a5-8: (27) 經未來亦供養至護持法寶藏 贊曰下九頌半頌授記中有二常二頌半因記後之七頌果記此初有六一供佛二宣法三淨佛土四說法五利生六護法
- (61) Skt. Kern 1977, pp. 205.6-206.2; Tib. 中村1985, pp. 205.6-206.2; Chin. T. No. 262, p. 28b9-19.
- (62) T. No. 1723, 804a9-12: (28) 經其後得成佛至亦無諸惡道 贊曰下果有二初二頌半頌記後一頌半結略此初有四一自體二國名三劫名四土相善薩衆甚多下皆土所攝准前所說故
- (63) Skt. Kern 1977, p. 206.3-4; Tib. 中村1985, p. 206.3-4; Chin. T. No. 262, p. 28b20-

- 22.
- (64) T. No. 1723, 804a13-14: (29) 經富樓那比丘至我今但略說 贊曰結略也觀此文意授八地已上報佛土記
- (65) Skt. Kern 1977, p. 206.5-6; Tib. 中村1985, p. 206.5-7; Chin. T. No. 262, p. 28b23-25.
- (66) T. No. 1723, 804a15-17: (30) 經爾時千二百至不亦快乎 贊曰下第二大段五百人記有四一心怖二許可三正記四悔領此初也
- (67) Skt. Kern 1977, p. 206.6-7; Tib. 中村1985, p. 206.7-9; Chin. T. No. 262, p. 28b25-27.
- (68) T. No. 1723, 804a18: (31) 經佛知此等至三菩提記 贊曰二許可也
- (69) Skt. Kern 1977, p. 206.7-12; Tib. 中村1985, p. 206.9-12; Chin. T. No. 262, p. 28b27-c2.
- (70) T. No. 1723, 804a19-22: (32) 經於此衆中至佛世尊 贊曰三正爲記有二初現前記後頌中末後一頌半不現前記初文有二初長行後偈頌長行有二初陳如後五百此初也
- (71) Skt. Kern 1977, p. 207.1-5; Tib. 中村1985, p. 207.1-4; Chin. T. No. 262, p. 28c2-6.
- (72) T. No. 1723, 804a23-27: (33) 經其五百至名曰普明 贊曰此記五百有二解一云卽千二百中五百也二云別也前解爲正迦留陀夷此云黑光優陀夷此云出現周陀此云蛇奴莎伽陀正云娑婆揭多此云善來餘如前釋
- (73) Skt. Kern 1977, p. 207.6-12; Tib. 中村1985, p. 207.5-11; Chin. T. No. 262, p. 28c6-12.
- (74) 漢文テキストにおいて、ここに説かれる「11偈」（サンスクリットとチベット語訳は「13偈」）を「9偈半」と「1偈半」に分け、前者をさらに「6偈」と「3偈半」に分けたものである。
- (75) T. No. 1723, 804a28-b3: (34) 經爾時世尊至故號爲普明 贊曰十一頌分二初九頌半頌現前記後一頌半頌不現前記初九頌半頌前記中六頌頌陳如記後三頌半頌五百記初中有五此文有二一頌時一頌半自體
- (76) Skt. Kern 1977, pp. 207.13-208.9; Tib. 中村1985, pp. 207.12-208.9; Chin. T. No. 262, p. 28c13-19.
- (77) T. No. 1723, 804b4-5: (35) 經其國土清淨至法滅天人憂 贊曰此中有三一句國土二頌一句眷屬後一頌住壽
- (78) Skt. Kern 1977, pp. 208.10-209.5; Tib. 中村1985, pp. 208.10-209.5; Chin. T. No. 262, p. 28c20-26.
- (79) T. No. 1723, 804b6-8: (36) 經其五百比丘至皆如上所説 贊曰此五百記有三三句自體一頌一句傳記一頌半結類
- (80) Skt. Kern 1977, p. 209.7-8; Tib. 中村1985, p. 209.7-8; Chin. T. No. 262, p. 28c27-



29.

- (81) T. No. 1723, 804b9-10: (37) 經迦葉汝已知至汝當爲宣說 贊曰此第二段不現前記授千二百人中不在會者
- (82) Skt. Kern 1977, p. 209.9-210.1; Tib. 中村1985, pp. 209.9-210.2; Chin. T. No. 262, p. 29a1-3.
- (83) T. No. 1723, 804b11-12: (38) 經爾時五百至悔過自責 贊曰第四悔領有二初標歡喜悔責後申言悔責此初也
- (84) Skt. Kern 1977, p. 210.1-4; Tib. 中村1985, p. 210.2-4; Chin. T. No. 262, p. 29a3-5.
- (85) T. No. 1723, 804b13-15: (39) 經世尊至小智爲足 贊曰下申言悔責有二長行偈頌長行有二初自責後領解此初也初標後釋
- (86) Skt. Kern 1977, p. 210.5-6; Tib. 中村1985, p. 210.5-6; Chin. T. No. 262, p. 29a5-8.
- (87) T. No. 1723, 804b16-c14: (40) 經世尊至與之而去 贊曰領解有二初喻後合喻中有二初領昔權後領今實於後親友會遇見之下是初文有三一領初將離險二人醉臥下領中途方退三起已遊行下領爲設化城不領第四衆倦皆息此初也即十六王子等所最初相逢有人者自喻己身親友家者喻前王子眞善友故友同志也親也禮記云僚友稱其佛執友稱其仁鄭玄僚友同官執友同志前以佛法爲國大乘爲城中道大乘爲舍今此家者即是彼舍從生死中往佛法故時猶凡夫煩惱未斷無明所纏惛醉迷心當寢生死雖遇佛法猶名醉臥是時王子此化緣息餘處行化名官事當行亦如汎駛舟而東邁颯凝沼而西流其實不行自行背眞遂謂佛去華嚴經說有十種行一聞法行二說法行三不隨貪瞋癡行四欲界行五色無色界三昧行六義法行七一切趣行八一切佛利行九菩薩行十成滿諸佛行隨應當釋此爲十方法王佛法而往他化故言官事當行以無價寶珠謂大菩提心寶珠有三一水清二如意三吐金吐金有三一下品吐一得千倍二中品吐一得萬倍三上品吐一得無量倍喻於一乘能出三乘從小至大如次配之水清總喻佛法清煩惱故意喻大菩提心隨求皆滿故今取此爲喻衣謂意識繁謂熏習教之發心已他方行化名與而去。漢文テキストは、これに続いて次の句「T. No. 1723, 804c15-20: (41) 經其人醉臥都不覺知 贊曰第二領中途方退當時猶爲煩惱惛醉雖臥大乘親友之舍不自覺知有菩提心珠唯識引經惛醉經心會無醒覺彼以末那相應無明名爲醉體今以第六不共無明正爲醉體在異生位起遊行故」の解説が続くが、この「T. No. 262, 29a8: 其人醉臥都不覺知」に対応する句は『法華經』のサンスクリットとチベット語訳には存在しないために、本論では翻訳されていない。
- (88) Skt. Kern 1977, p. 210.6-9; Tib. 中村1985, p. 210.6-8; Chin. T. No. 262, p. 29a8-10.
- (89) T. No. 1723, 804c21-805a2: (42) 經起已遊行至便以爲足 贊曰第三領爲設化城既退大心起規勝法名爲遊行遂至二乘佛法之中名爲他國非會生長故昔在生死名自國故處大乘中名親友舍若發心已佛法內人以佛法爲自國生死爲他國故前說言久住他國五十餘年未發心前佛法外人以生死爲自國佛法爲他國即此文是亦同涅槃經所說

也或以大乘爲父舍小乘爲他國求正法味名爲衣食勤已精勤以規正法名勤力求甚大艱辛此在二乘因位捨五欲樂放逸具故少有所得二乘菩提更不進求便以爲足生已度想安隱想故

- (90) Skt. Kern 1977, pp. 210.9-211.1; Tib. 中村1985, p. 210.8-210.10; Chin. T. No. 262, p. 29a10-11.
- (91) T. No. 1723, 805a3-6: (43) 經於後親友至乃至如是 贊曰下第二段領今說實有二初領滅化後領說實此初也何故爲求無漏衣食而枉至於二乘地耶如是艱辛得小果利此非實耳
- (92) Skt. Kern 1977, p. 211.1-5; Tib. 中村1985, p.211.1-4; Chin. T. No. 262, p. 29a12-14.
- (93) T. No. 1723, 805a7-15: (44) 經我昔欲令至甚爲癡也 贊曰下領正說實有三初說剋剋遇次責住權後令取實此初二也五欲樂者卽五安樂一自性樂二因樂三受斷樂四苦對治樂五無惱害樂或佛果五法清淨法界及四智品或是大乘無漏五蘊謂戒身等我昔爲令汝得此樂故繁無價珠菩提妙因薰汝之心識衣裏現在責住權云而汝不知虛自憂勞以求自利法執不減不求五樂甚爲癡也
- (94) Skt. Kern 1977, p. 211.6-7; Tib. 中村1985, p. 211.5; Chin. T. No. 262, p. 29a14-16.
- (95) T. No. 1723, 805a16-23: (45) 經汝今可以至無所乏短 贊曰此令取實質音莫侯反換易也交易物爲質字從貝從卯卯音酉有作質玉篇歌雅反人姓也非此義今從莫侯反不知質字所出以貿易者用初心小寶珠親近諸佛聞熏正法更增善根易取大乘上位福智大如意珠貴珍寶也一得已後常可如意無所乏短衆德滿故
- (96) Skt. Kern 1977, p. 211.8-9; Tib. 中村1985, p. 211.7-8; Chin. T. No. 262, p. 29a16-17.
- (97) T. No. 1723, 805a24-26: (46) 經佛亦如是至一切智心 贊曰下合中有二初合領昔權後今者世尊下合領今實初文亦三此合初將離險
- (98) Skt. Kern 1977, p. 211.9; Tib. 中村1985, p. 211.8; Chin. T. No. 262, p. 29a17.
- (99) T. No. 1723, 805a27-28: (47) 經而尋廢忘不知不覺 贊曰二合領中途方退
- (100) Skt. Kern 1977, p. 211.9-10; Tib. 中村1985, p. 211.8-10; Chin. T. No. 262, p. 29a17-19.
- (101) T. No. 1723, 805a29-b4: (48) 經既得阿羅漢道至猶在不失 贊曰三合領爲設化城修行規覓聖法財寶之時虛費功力名資生艱難艱土難治也釋名艱根也如物根耳難憚也人所忌憚得阿羅漢謂得道滿少謂爲足昔因本願今者猶在今時熟故
- (102) Skt. Kern 1977, pp. 211.10-212.1; Tib. 中村1985, p. 211.10-13; Chin. T. No. 262, p. 29a19-22.
- (103) T. No. 1723, 805b5-8: (49) 經今者世尊至實得滅度 贊曰下合領今說實有二初合領滅化後合領說實此初也示二涅槃爲佛之因故言令汝種佛善根示涅槃相

- (104) chog par 'dzin pa bde gshegs bstan pa.
- (105) Skt. Kern 1977, p. 212.1-8; Tib. 中村1985, pp. 211.13-212.6; Chin. T. No. 262, p. 29a22-24. ただし、本論は、漢文テキストの次の (50) (T. No. 262, 29a22-24) と (51) (T. No. 262, 29a24-b1) をまとめて解説する。
- (106) Tib.: tshigs sub cad pa phyed dang bcu gsum. 鳩摩羅什訳は「12偈半」であるが、サンسكريットとチベット語訳では「12偈」である。
- (107) T. No. 1723, 805b9-13: (50) 經世尊至得未曾有 贊曰此合領今說實喜得未曾有 (51) 經爾時阿若憍陳如等至便自以爲足 贊曰十二頌半分二初二頌半頌悔賁後十頌領解此初也初一頌標禮後一頌半自賁
- (108) Skt. Kern 1977, pp. 212.9-213.6; Tib. 中村1985, pp. 212.7-213.6; Chin. T. No. 262, p. 29b6-13. ただし、以下の (52) (T. No. 262, 29b2-5) と (53) (T. No. 262, 29b6-9) の解説部分を欠いている。
- (109) T. No. 1723, 805b14-28: (52) 經譬如貧窮人至時臥不覺知 贊曰下頌領解爲二初六頌頌喩領後四頌頌合領初復爲二初四頌頌頌昔權喩後二頌頌領今說實喩領權爲三此文有二初七句領初發心喩次一句領中途方退喩從生死中至大乘舍故名爲往法財無量故名大富以教法爲膳菩提心爲珠雖遇大乘猶無明醉故臥不覺 (53) 經是人既已起至有無價寶珠 贊曰三頌爲設化城喩退大已後從生死起往二乘國 (54) 經與珠之親友至五欲而自恣 贊曰領今說實喩初頌示往因滅化顯眞後頌明生歡喜雖現未富富諸財未得五欲如得無異如見樹居白鷺表水非無故
- (110) Skt. Kern 1977, p. 213.7-10; Tib. 中村1985, p. 213.7-10; Chin. T. No. 262, p. 29b14-17.
- (111) T. No. 1723, 805b29-c3: (55) 經我等亦如是至自足不求餘 贊曰下四頌合領有二初二頌頌合領昔權後二頌頌合領今說實此初也初一頌頌合領初將離險次半頌頌合領中途方退後半頌頌合領爲設化城
- (112) bla med de ni mi 'dod mi tsol lo; SDP bla ma mi re mi tshol mi sems so.
- (113) Skt. Kern 1977, pp. 213.10-214.4; Tib. 中村1985, pp. 213.10-214.4; Chin. T. No. 262, p. 29b18-21.
- (114) T. No. 1723, 805c4-6: (56) 經今佛覺悟我至身心遍歡喜 贊曰二頌合領今說實爲二初一頌頌合領滅化顯眞後一頌頌以生歡喜

## チベット語訳「妙法蓮華註」「五百弟子受記品」和訳（望月海慧）

## 〈付録〉漢文テキスト「五百弟子受記品」の科文

科文	名目（偈頌の数）	頁：（贊）	引用経論（直接引用）
0	三門分別	801c22	
0-1	來意	801c22	
0-1-1	上根之徒…故此品來		
0-1-2	論云…故此品來		【法華論】
0-1-3	十無上中…是義殘也		
0-1-4	論解授記…名為同記		
0-2	釈名	802a14	
0-3	解妨	802a17	
0-3-1	第一問答		
0-3-2	第二問答		
0-3-3	第三問答		
0-3-3-1	第三問答第一答		
0-3-3-2	第三問答第二答		
0-3-3-3	第三問答第三答		
0-3-3-4	第三問答第四答		
III-2	第三周第二段	802b7: (1)	
1	滿慈心念領解		
1-1	領解虔恭		
1-1-1	所領		
1-1-1-1	領說法		
1-1-1-2	領授記		【授記品】
1-1-1-3	領宿世因緣		【方便品】【譬喻品】
1-1-1-4	領神通		【方便品】
1-1-2	虔恭	802b27: (2)	
1-2	心念領解	802b30: (3)	
III-3	第三周第三段	802c4: (4)	
2	世尊發言印述		
2-1	問衆見不		
2-2	歎其今德	802c12: (5)	
2-2-1	歎人		
2-2-2	歎德		
2-2-2-1	總		
2-2-2-2	別	802c15: (6)	
2-2-2-2-1	助宣正法		
2-2-2-2-2	能於四衆示教利喜		
2-2-2-2-3	能釈佛法		
2-2-2-2-4	利益同行		

## チベット語訳『妙法蓮華註』「五百弟子受記品」和訳（望月海慧）

2-2-2-25	盲弁高峻		
2-3	談其往徳	802c19: (7)	
2-3-1	護助宣法		
2-3-2	成勝人		
2-3-3	解二空	802c22: (8)	
2-3-4	得四弁		
2-3-5	常審宣説		
2-3-6	無疑惑		
2-3-7	具神通	802c26: (9)	
2-3-8	修梵行		
2-3-9	隱行大利		
2-3-10	[如前一乗章]	803a1: (10)	【撰論】【楞伽經】
2-3-10-1	利他行		
2-3-10-2	由利他成自利行		
III-4	第三周第四段	803a11: (11)	
3	正為授記		
3-1	授満慈記		
3-1-1	記因		
3-1-1-1	記成勝人		
3-1-1-2	護助宣法	803a20: (12)	
3-1-1-3	化立菩提		
3-1-1-4	常勤	803a22: (13)	
3-1-1-5	利生		
3-1-1-6	具菩薩道		
3-1-2	記果	803a24: (14)	
3-1-2-1	名号		
3-1-2-2	土相	803a26: (15)	
3-1-2-2-1	顕		
3-1-2-2-1-1	寛狭		
3-1-2-2-1-2	相状		
3-1-2-2-1-2-1	宝地		
3-1-2-2-1-2-2	地平		
3-1-2-2-1-2-3	台観		
3-1-2-2-1-3	有善無惡	803b3: (16)	
3-1-2-2-1-3-1	天近		
3-1-2-2-1-3-2	相見		
3-1-2-2-1-3-3	無惡道女人		
3-1-2-2-1-3-4	無欲化生		
3-1-2-2-1-4	人天之相	803b6: (17)	
3-1-2-2-1-4-1	得通		

## チベット語訳【妙法蓮華註】「五百弟子受記品」和訳（望月海慧）

3-1-2-2-1-42	身光		
3-1-2-2-1-43	飛行		
3-1-2-2-1-44	志固		
3-1-2-2-1-45	精進		
3-1-2-2-1-46	智慧		
3-1-2-2-1-47	相好		
3-1-2-2-1-5	食任持	803b9: (18)	【無垢称経】【摂論】
3-1-2-2-1-6	三乗眷属	803c12: (19)	
3-1-2-2-2	結	803c14: (20)	
3-1-2-3	劫	803c15: (21)	
3-1-2-4	国		
3-1-2-5	寿		
3-1-2-6	塔		
3-1-A	[二十一頌半]	803c17: (22)	
3-1-A-1	頌上仏印述 (12)		
3-1-A-1-1	頌歎今徳 (7)		
3-1-A-1-1-1	標擧 (2.5)		
3-1-A-1-1-2	釈成 (3)	803c23: (23)	
3-1-A-1-1-2-1	示往声聞去仏道遠化諸衆生 (1.5)		
3-1-A-1-1-2-2	示現処小実浄仏土 (1.5)		
3-1-A-1-1-3	結略 (1.5)	803c26: (24)	
3-1-A-1-2	頌歎往徳 (5)	803c28: (25)	
3-1-A-1-2-1	護法		
3-1-A-1-2-2	勝人		
3-1-A-1-2-3	多聞有智慧		
3-1-A-1-2-4	能説	804a2: (26)	
3-1-A-1-2-5	得通		
3-1-A-1-2-6	具無礙解		
3-1-A-1-2-7	識根		
3-1-A-1-2-8	説浄法		
3-1-A-1-2-9	為大益		
3-1-A-1-2-10	浄仏土		
3-1-A-2	頌正為記 (9.5)	804a5: (27)	
3-1-A-2-1	因記 (2.5)		
3-1-A-2-1-1	供仏		
3-1-A-2-1-2	宣法		
3-1-A-2-1-3	浄仏土		
3-1-A-2-1-4	説法		
3-1-A-2-1-5	利生		
3-1-A-2-1-6	護法		

## チベット語訳【妙法蓮華註】「五百弟子受記品」和訳（望月海慧）

3-1-A-2-2	果記 (7)	804a9: (28)	
3-1-A-2-2-1	頌記 (5.5)		
3-1-A-2-2-1-1	自体		
3-1-A-2-2-1-2	国名		
3-1-A-2-2-1-3	劫名		
3-1-A-2-2-1-4	土相		
3-1-A-2-2-2	結略 (1.5)	804a13: (29)	
3-2	授五百記	804a15: (30)	
3-2-1	心怖		
3-2-2	許可	804a18: (31)	
3-2-3	正記	804a19: (32)	
3-2-3-1	現前記		
3-2-3-1-1	長行		
3-2-3-1-1-1	陳如		
3-2-3-1-1-2	五百	804a23: (33)	
3-2-3-1-1-2-1	千二百中五百		
3-2-3-1-1-2-2	別		
3-2-3-1-2	偈頌 (11)	804a28: (34)	
3-2-3-1-2-1	現前記 (9.5)		
3-2-3-1-2-1-1	頌陳如記 (6)		
3-2-3-1-2-1-1-1	時 (1)		
3-2-3-1-2-1-1-2	自体 (1.5)		
3-2-3-1-2-1-1-3	国土 (0.25)	804b4: (35)	
3-2-3-1-2-1-1-4	眷属 (2.25)		
3-2-3-1-2-1-1-5	住寿 (1)		
3-2-3-1-2-1-2	頌五百記 (3.5)	804b6: (36)	
3-2-3-1-2-1-2-1	自体 (0.75)		
3-2-3-1-2-1-2-2	伝記 (1.25)		
3-2-3-1-2-1-2-3	結類 (1.5)		
3-2-3-2	不現前記 (1.5)	804b9: (37)	
3-2-4	悔領	804b11: (38)	
3-2-4-1	標歛喜悔賁		
3-2-4-2	申言悔賁	804b13: (39)	
3-2-4-2-1	長行		
3-2-4-2-1-1	自賁		
3-2-4-2-1-2	領解	804b16: (40)	【華嚴經】
3-2-4-2-1-2-1	喩		
3-2-4-2-1-2-1-1	領昔權		
3-2-4-2-1-2-1-1-1	領初將離險		
3-2-4-2-1-2-1-1-2	領中途方退	804c15: (41)	【成唯識論】

## チベット語訳「妙法蓮華註」「五百弟子受記品」和訳（望月海慧）

3-2-4-2-1-2-1-1-3	頌為設化城	804c21: (42)	
3-2-4-2-1-2-1-2	頌今說実	805a3: (43)	
3-2-4-2-1-2-1-2-1	頌減化		
3-2-4-2-1-2-1-2-2	頌說実	805a7: (44)	
3-2-4-2-1-2-1-2-2-1	說勸遇		
3-2-4-2-1-2-1-2-2-2	責住権		
3-2-4-2-1-2-1-2-2-3	令取実	805a16: (45)	
3-2-4-2-1-2-2	合	805a24: (46)	
3-2-4-2-1-2-2-1	合頌昔権		
3-2-4-2-1-2-2-1-1	合将離險		
3-2-4-2-1-2-2-1-2	合頌中途方退	805a27: (47)	
3-2-4-2-1-2-2-1-3	合頌為設化城	805a29: (48)	
3-2-4-2-1-2-2-2	合頌今実	805b5: (49)	
3-2-4-2-1-2-2-2-1	合頌減化		
3-2-4-2-1-2-2-2-2	合頌說実	805b9: (50)	
3-2-4-2-2	偈頌 (12.5)	805b11: (51)	
3-2-4-2-2-1	頌悔責 (2.5)		
3-2-4-2-2-1-1	標禮 (1)		
3-2-4-2-2-1-2	自责 (1.5)		
3-2-4-2-2-2	頌頌解 (10)	805b14: (52)	
3-2-4-2-2-2-1	頌喩頌 (6)		
3-2-4-2-2-2-1-1	頌昔権喩 (4)		
3-2-4-2-2-2-1-1-1	頌初教發心喩 (1.75)		
3-2-4-2-2-2-1-1-2	頌中途方退喩 (0.25)		
3-2-4-2-2-2-1-1-3	頌為設化城喩 (2)	805b22: (53)	
3-2-4-2-2-2-1-2	頌頌今說実喩 (2)	805b25: (54)	
3-2-4-2-2-2-1-2-1	示往因減化顯真 (1)		
3-2-4-2-2-2-1-2-2	明生歡喜 (1)		
3-2-4-2-2-2-2	頌合頌 (4)	805b29: (55)	
3-2-4-2-2-2-2-1	頌合頌昔権 (2)		
3-2-4-2-2-2-2-1-1	頌合頌初将離險 (1)		
3-2-4-2-2-2-2-1-2-1	頌合頌中途方退 (0.5)		
3-2-4-2-2-2-2-1-2-2	頌合頌為設化城 (0.5)		
3-2-4-2-2-2-2-2	頌合頌今說実 (2)	805c4: (56)	
3-2-4-2-2-2-2-2-1	頌合頌減化顯真 (1)		
3-2-4-2-2-2-2-2-2	頌以生歡喜 (1)		

〈キーワード〉

「妙法蓮華經玄贊」、[法華経]、「五百弟子受記品」、基、慈恩大師